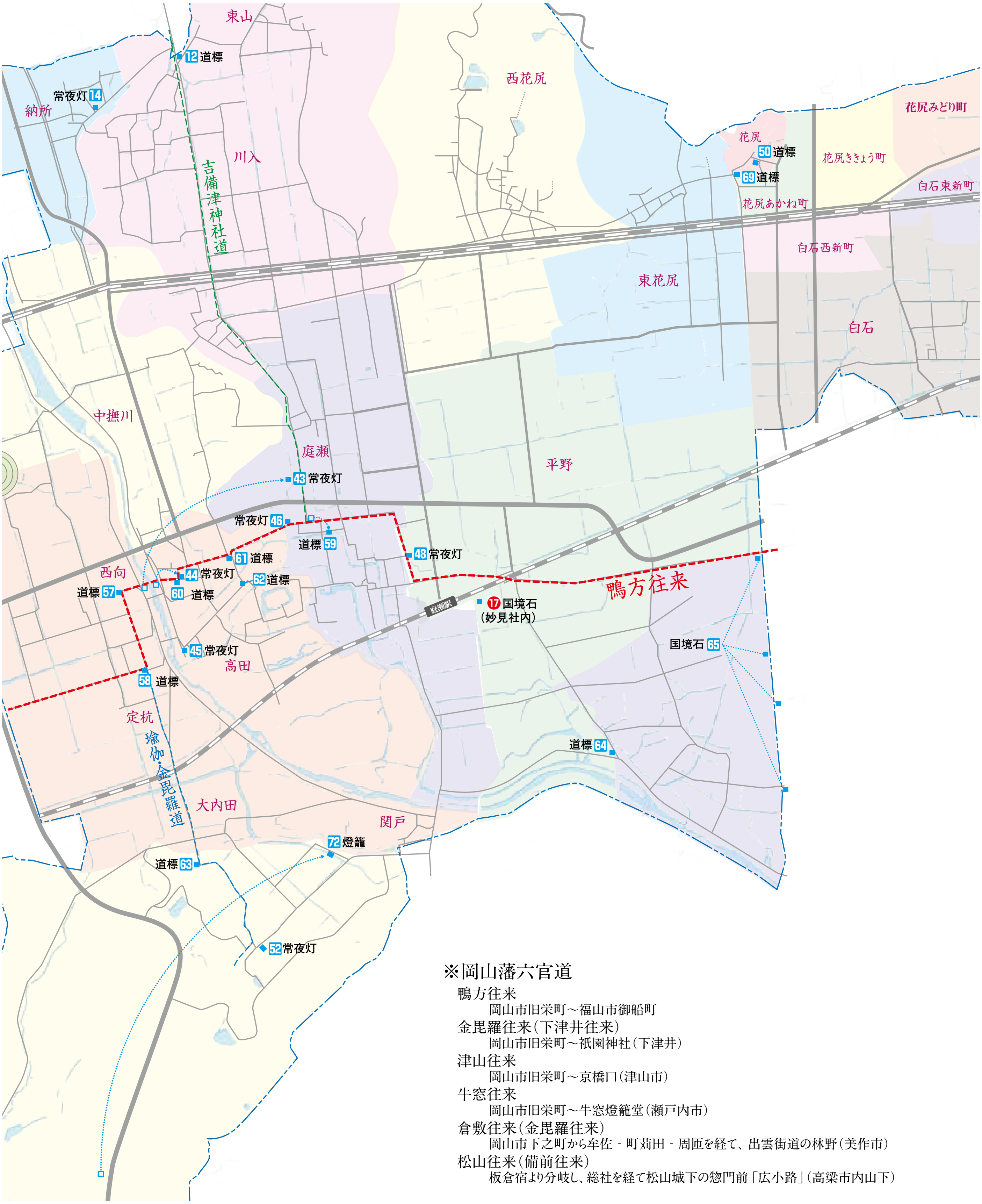
道標について

鴨方往来と吉備津、金毘羅への分岐点

当地区は、岡山城下を起点とする岡山藩六官道※のひとつ鴨方街道(鴨方往来)筋にあたり、特に岡山～庭瀬間は「庭瀬往来」とも呼ばれ、庭瀬は陣屋町として栄えた。多くの御影石製の道標が残っている。常夜灯の笠石部分に刻印し、道標と兼ねさせたものも多く見られる。

また当地区は、吉備津宮や由加山、金毘羅宮への分岐点ともなり、それらの表記も多く見られる。他は岡山、倉敷、玉島、下津井、松山、足守等の行先表記があり、各々の宛て字にも趣向がある。

方向を示す手の袖に時代性が見られ、明治以前は振袖59 61、明治以降は洋服の筒袖12 50 69となっている。



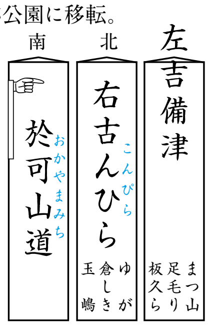
※岡山藩六官道

鴨方往来
　岡山市旧栄町～福山市御船町
金毘羅往来(下津井往来)
　岡山市旧栄町～祇園神社(下津井)
津山往来
　岡山市旧栄町～京橋口(津山市)
牛窓往来
　岡山市旧栄町～牛窓燈籠堂(瀬戸内市)
倉敷往来(金毘羅往来)
　岡山市下之町から牟佐 - 町苅田 - 周匝を経て、出雲街道の林野(美作市)
松山往来(備前往来)
　板倉宿より分岐し、総社を経て松山城下の惣門前「広小路」(高梁市内山下)

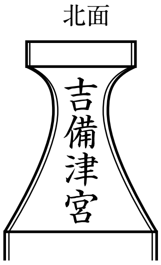
鴨方往来沿い

48 観音堂常夜燈
（平成29年撤去・廃棄）

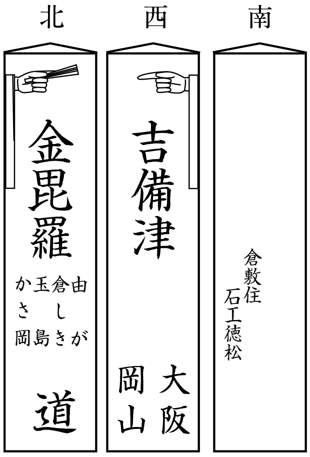
59 本町道標
元の三叉路から道路整備のため庭瀬港跡公園に移転。



46 法万治川常夜燈
庭瀬村と撫川村の境の法万治川西岸にあったが、歩道工事により信城寺境内へ移転。

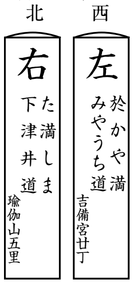


61 挟川（はざかわ）道標
吉備津、金毘羅方面への分岐点にある道標。名石工徳松の作。



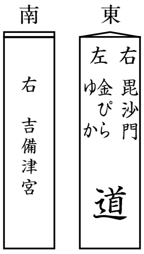
44 大橋常夜燈
足守川堰堤から大橋中之町公民館へ移転。

60 大橋道標
みやうちは吉備津神社の門前町のこと。（距離20丁）



43 西向常夜燈
足守川堰堤から私有地を経て吉備公民館内へ移転。

57 西向道標
右に毘沙門（日差山）への表記がある。



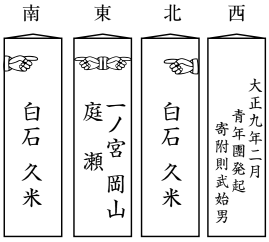
58 定杭道標
金毘羅道への表記がある。

第三編　資料

備前・備中の国境（花尻）

50 花尻道標

白石・久米と庭瀬、一宮方面への分岐点にある道標。



69 花尻道標

廃藩置県までは、備前・備中の国境がここにあり、「備中花尻・備前花尻」の表記がある。

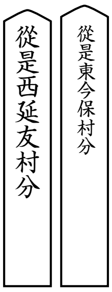
備前・備中の国境（延友）

65 延友国境石

備前・備中の国境となる境目川沿いにあり、宝永年間に13ケ所26本の境界石が立てられた。

65 延友国境石

65 延友国境石



65 延友国境石

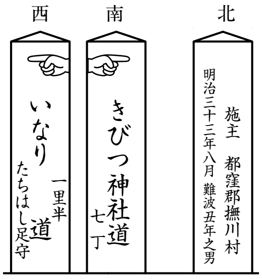
17 国境石

妙見社境内に移設されている。

稲荷・吉備津方面（川入）

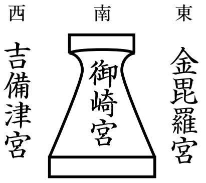
12 川入道標

庭瀬郷と板倉郷の境界にある道標。



14 納所常夜燈

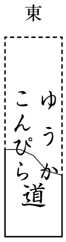
信城寺から法万治川をさかのぼって宮内（吉備津神社の門前町）に至る水路の中間点。



金毘羅·由加方面(大内田)

63 大内田道標

大内田集落入口にあり、由加山、金毘羅方面への道標。上部が破損。

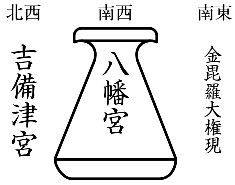


72 大内田燈籠

もと塚山集落の峠にあったものを流通センター開発により移転。吉備津宮と八幡宮(大内田)の表記がある。

52 大内田常夜燈

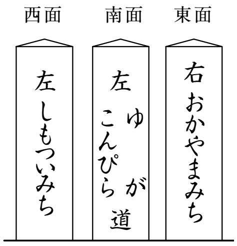
大内田集落の旧船着場の常夜燈二刻印され、吉備津宮、八幡宮(大内田)、金毘羅方面の刻印あり。



その他

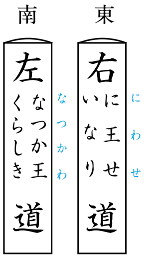
62 下東道標

白石·久米と庭瀬、一宮方面への分岐点にある道標。



64 延友道標

足守川から庭瀬に入る三叉路にあり、この場所は藩政時代に年貢米を上方に船積みする港として栄えた。



45 高田常夜燈

足守川拡幅工事後も堰堤外側に残した。金毘羅、瑜伽、吉備津宮の表記あり。